

各 位

平成28年10月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



秋を感じさせる野草園 (写真下は咲き誇るヒガンバナ、上は色鮮やかなクサギの果実)

残暑とは全く無縁の少し肌寒い中でしたが、9月17日から19日の三日間、「秋の野草園祭り」を実施しました。多くのお客様から来園していただき、「野草の苗プレゼント」「ミニ新幹線運行」「乗馬体験」「餅つき」等、自然の中で楽しい一日を過ごして頂きました。

これからの野草園は、新たに咲き出す花は少なくなりますが、紅葉や面白い果実が見頃になります。例えば、表紙の上「クサギ」は、球果は綺麗な藍色で、花びらに見えるのは萼片が肥大して紅紫色になったものです。そして、果実も萼もそれぞれ染料になるのです。

この他にも不思議な果実などが多数見られますので、外に出るには絶好のこの時期、ぜひ野草園にお出かけ頂いて、ゆったりとした時間を過ごして頂ければ幸いです。どうぞ、ご家族・ご近所お声がけして皆さんでおいで下さい。お待ちしております。

10月初旬～10月中旬の予定

◆「きのこ汁の振舞い」

- 日 時 10/2(日) 9(日) 16(日) 11:00～12:00
- 場 所 自然学習センター内
- 内 容 各日先着50名にきのこ汁を振舞います。

◆第23回 野草園の魅力を探る「写真コンテスト」入賞作品展

- 日 時 10/8(土)～11/23(水) 9:00～16:30
- 場 所 自然学習センター内

◆『木の実のオブジェ作り講座』

- 日 時 10/9(日) 23(日) 10:00~12:00
○場 所 自然学習センター ○内 容 ドングリなどを使ったストラップ作り。
○対 象 一般先着 20名 ○参加費 無料(入園料別)
○申込み 電話で野草園まで ☎023-634-4120

◆『ハーブリース教室』

- 日 時 10/10(月) 10:00~12:00 ○場 所 自然学習センター
○内 容 ユーカリなどを使ったリース作り、ハーブティーの試飲。
○対 象 一般先着 20名 ○参加費 2,000円(入園料別)

◆『焼き芋の振舞い』

- 日 時 10/15(土) 16(日) 11:00~なくなり次第終了
○場 所 「クリンソウの谷」東側(中央広場西側)
○内 容 各日先着100名に小石を使った本格的な焼き芋を振舞います。熱々の味をお楽しみ下さい。

◆『家屋新築記念樹交付』

- 日 時 10/15(土) 16(日) 10:00~15:00
○場 所 料金所裏
○内 容 家屋を新築され、申請した方に、記念樹を交付します。…ヤマボウシ、ナナカマド等

◆『四季観察会③ 紅葉と木の実』 ※講師：植物案内ボランティア 佐藤 誠二氏

- 日 時 10/19(土) 10:00~15:00
○内 容 野草園から三本木沼方面の植物観察 ○持ち物 昼食、雨具
○対 象 一般先着 20名 ○参加費 100円(入園料別)

◆『ガイドウォーキング』

- 日 時 10/2(日) 9(日) 10(月) 15(土) 16(日) 23(日) 30(日)
①回目 10:00~11:00 ②回目 11:00~12:00 ③回目 13:00~14:00 ④回目 14:00~15:00
○内 容 ボランティアガイドと一緒に野草園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。

★★★ 今、見頃の花 ★★★



シオン(キク科) 山地のやや湿った所に生える多年草で、本州から九州にかけて分布し、野生のものは稀です。葉は細長い楕円形で対生し、根際から生える葉には長い柄がありますが、上の葉にはほとんど葉柄がありません。頭花は花径が25~35mmほどで、筒状花は黄色く、舌状花は淡い紫色です。茎の割に花が大きく、凜とした姿です。



シュウメイギク(キンポウゲ科) 庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれているそうです。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の“ジャパニーズアネモネ”が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



ヒガンバナ(ヒガンバナ科) 人里に近いところに群生する多年草です。ラッキョウ型の鱗茎が地下にあり、外皮は黒いそうです。秋の葉がない時に鱗茎から茎を1本出し、その先に有柄の花を輪状につけます。花被は6片で細長く外側に反り、へりは縮れています。雄しべ6本と雌しべが長く出て花被と同色です。名は秋の彼岸頃に花が咲くからです。



エゾオヤマリンドウ(リンドウ科) エゾリンドウの高山型で、花は茎頂付近にしか付かないのが特徴です。登山道脇、高山の日当たりの良い草原などで見られます。天気が良く、陽光が一杯に当たっていないと開花しないという性質があり、開花しても花弁全体が開くことはありません。草丈は40～50cmです。



ウメバチソウ(ユキノシタ科) 山地などの湿り気のある日当たりのよい所に生える多年草です。根生葉は長い柄がありますが、中頃の葉は円形または腎形で基部は心形となります。数本の花茎を直立し一枚の葉と一個の花をつけます。花茎につく葉は柄がなく茎を抱きます。花は白色で梅の花に似ています。名は花が梅鉢の紋に似ているからです。



センズリ(リンドウ科) 日本、朝鮮・中国に分布する越年生の1年草で、痩せた草原、路傍などに生育します。草丈は20cm程になり茎は紫色を帯び、葉は長さ5～11mm程。薄紫の線がある白い花は5深裂し、直径12～15mm程。強い苦味があり、健胃薬として有名です。古い時代にはノミやシラミを殺す殺虫剤として使用されていたということです。



ダイヤモンドソウ(ユキノシタ科) 湿気に富む岩地に生える多年生草本です。葉は長い柄があり腎円形で基部は普通心形となります。裏面は通常白味を帯びますがときに暗紅色のものもあります。掌状に浅く7裂し裂片には粗いきょ歯があります。白色の花を開き花弁は5枚、上の3枚は小さく下の2枚は長く、全体として大の字に似ています。本園では、ロックガーデンに咲いています。



ゴールデンピラミッド(キク科) 和名はヤナギバヒマワリで、北アメリカのネブラスカからテキサス州にいたる地域に分布するそうです。茎が直立して無毛、頂部に多数の葉を互生します。花は、舌状花が多くてレモンイエロー、筒状花は褐色または紫色を帯びています。和名は、花がヒマワリに似て、葉が柳の葉のように見えるからです。



タイワンホトトギス(ユリ科) 沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種はタイワンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



エゾリンドウ(リンドウ科) 福井県以北の山地帯から亜高山帯の草地などに生える多年草。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎のさきや葉のわきにつけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



コスモス(キク科) メキシコのもので、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に8枚の舌状花が並び、これが花色を表し結実せず、中心に黄色の筒状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。



キバナコスモス(キク科) メキシコ原産の一年草。コスモスの1種ですが花色は橙色や黄色など、草丈は低め、花もコスモスより早い時期から咲き始めます。黄色の花を咲かせるコスモスの仲間なので、キバナコスモス(黄花コスモス)です。大正時代に渡来し、性質は丈夫で、真夏の炎天下でもめげることなく元気に育ち花を咲かせてくれます。



ヤクシソウ(キク科) 山野に普通に生える2年草です。葉は薄く基部で茎を抱き、切ると白い乳液をだします。枝先に多数の花をつけます。頭状花は全部黄色の舌状花からなり、花期が終わると下を向き、黒っぽい総苞と白い冠毛が目立ちます。名は葉の形が薬師如来の光背に似ることによりますが、はっきりした語源は不明だそうです。園内いろいろなところで咲いています。



アキノウナギツカミ(タデ科) 北海道～九州の水辺や湿地に群生する1年草。高さは0.6～1m。茎はよく枝分かかれし、稜角があり、逆刺があつて他物にからみます。長さ5～10cmの葉は卵状披針形、基部は矢じり形で、両面無毛ですが下面中肋だけ逆刺毛があり、茎を抱くようにはりだしています。下部の葉には葉柄があり、長さ7～20mm、するどい逆刺があります。花は枝先に10数個が頭状に集まります。



ナギナタコウジュ(シソ科) 山地や道端に多く見られる1年草で、全体に強い香りがあります。対生する葉は柄があり、長卵形です。枝先に太い花穂を出し、淡紫色の小形の唇形花を一方向きに密生します。葉と花穂を陰干したものは利尿薬として漢方になります。名は、太くやや反った花穂の形がなぎなたに似ているからだそうです。



ノコンギク(キク科) 山野のいたるところに普通に見られる多年草で、地下茎をのばしてふえます。茎はよく枝分かかれし、短毛が密生し、葉も両面に短毛が生えざらつきます。花は、中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(コンギク)として観賞用に栽培されています。



オオミソバ(タデ科) 山地あるいは原野の水辺に生える1年生草本。茎の上部は直立し、下向きの刺があります。葉は有柄で互生し葉身はほこ形で、ミソバより大きく、毛が多いようです。枝先に白色または淡紅色の小形花をつけます。葉の付け根部分にある托葉が目立ったり、葉柄部分に翼があることでも見分けがつけられます。ミソバの花は白っぽく縁がピンクというものが多く、オオミソバは花全体がピンクです。

